

応募の注意点

1、留学にはリスクがあります。

派遣される各国の治安は日本と比較すると一般的に悪く、日本の常識は通用しません。日本にいるリスクに加え、さらにリスクがあるのです。日中でも女の子が一人で歩くのが危険なことがあるのは普通です。乞食やスリ、ホームレスはどこにでもみられます。場所によっては治安が悪く、近づくことが許されない地区が居住区に隣接することも普通です。ヨーロッパでは失業率は20パーセント以上の地域が多いのです。日本の失業率は3.5パーセントですが、アメリカで8パーセント台、フランスでは25パーセントにおよぶ地域地区があるのです。

2、ホームステイも楽しいだけではありません。

ホームステイ先の安全は現地クラブによってベストをもって保たれるようになっていきます。しかし、ホストブラザー、ホストファミリーとの相性が悪い。ホストファミリーの対応が悪い。さらには、物が盗まれたり、預け金がかやむやになつたり、果てはセクハラ事件などの事件も発生していることも事実です。ただ、多くの場合、留学生の言語能力、コミュニケーション能力の不足が事態を招いた原因の第一であることが多いとも言えます。また、食事におかずが何品もある。温かい食事がある。毎日毎食提供される。ということは普通ではないかもしれません。毎日アウトターを着替える。洗濯物をどんどん出す。シャワー使い放題なんてことは現地では非常識に近いことかもしれません。日本とちがい、なんでもズケズケ自分のやり方を主張します。日本のホストファミリーが学生を「お客様」として接しがちなのと対照的です。常にホストファミリーと話す姿勢がないと家族と認められません。部屋にこもる生活を選択した場合には強制帰国が待っています。個人生活の国とおもったら大間違い、かえって団体生活に適応できない人は留学生活にも適応できません。

3、学校は友人づくりの場ではありません。

特にヨーロッパで派遣されるリセやギムナジウムは勉強の場です。全学生の上位30%以上程度の生徒(偏差値55程度以上の生徒)が通学し、さらにバカロレアやアビトゥーア取得のため勉強に励むのです。ホームルームもなければクラブ活動もありません。皆勉強が終わればサッサと帰ってしまいます。自分から友達を作る努力をしたり、社会体育や地域活動にも積極的に取り組まないと友達はできません。授業は討論形式が主体です。日本のように先生が一方的に発言して黒板に書きまくるということはありません。発言しないことは授業を受けていないこととみなされます。

4、あなたはそれに耐える気持ちがありますか。

ほとんどの派遣留学経験者が、ホームステイ先や学校で辛い思いをした経験があります。また、早期に帰国をせざるを得なくなる例も少なくありません。しかし、多くの人はそれを自分で乗り越えたり、友人や信頼できる人に相談したりして乗り越える工夫をしています。もちろん、体や心に危害が加わる危険がある場合には速やかに、私たちやカウンセラー、警察に連絡してください。それに至る前に、ホストファミリーの変更、学校の変更等柔軟に対応しています。

5、語学を習得した上に留学に望む決意がありますか。

どんなに勉強していったとしても、最初から相手の言っている言葉がわかることはありません。その上、英語意外の国へ派遣された場合、最初に英語でコミュニケーションをとり、つぎに相手の国の言葉ということになるため、現地語の習得に加え、英語の習得は必須です。特に英語圏の場合、英語をはなせるのが当たり前の中で生活しなくてははいけませんので、かえってコミュニケーションの確立、現地の友人の獲得、現地習慣の習得には時間がかかるものです。あなたは、もう毎日英語の勉強は始めていますか。

6、あなたから話しかける、あなたから参加する、真剣に参加して成果をあげる。

もちろん学校の友人やホストファミリーは、はじめは皆親切に扱ってくれます。しかし、その2~3週間以内に、あなたから他の人に働きかける、参加する、手伝う、成果を見せることに努力しないと、あなたは他の人から取り残されてしまうのです。個人主義の国では貴方のバックグラウンドではなく、人そのものを評価するのです。

7、「留学すれば変わる」ことはありません。

留学すれば「何かが変わるだろう」ということはありません。何かを変える、そのために何をやるかが、今の貴方に問われています。